

氏名	大 枝 忠 史
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 乙 第 2675 号
学位授与の日付	平成 5 年12月 31 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4 条第2 項該当)
学位論文題目	Ethane dimethanesulphonate (EDS) 投与によるラット造精機能障害の検討 —hCGの防御的役割について—
論文審査委員	教授 工藤 尚文 教授 赤木 忠厚 教授 岡田 茂

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Ethane dimethanesulphonate (EDS) はラットの Leydig 細胞を破壊し, testosterone (T) の欠乏による精細管障害を引き起こすが, 今回, この精細管障害に対する hCG の防御作用を詳細に検討する目的で, Sprague-Dawley 系雄性ラットにおいて, EDS とともに hCG を種々の濃度, 期間で投与し, 薬剤投与前後の精巣障害の程度を評価した。

その結果, 併用投与群では, EDS 単独投与群に比較して精細管内 T はある程度維持され精細管の萎縮も軽度であり, この効果は EDS 投与前後で hCG を継続投与した群において, より低濃度で現われた。また, EDS と同時に hCG 投与を開始した群では, 高濃度の hCG で部分的な防御作用を認めた。

以上より, EDS 投与前後の hCG の継続投与により, 精細管内 T が維持され精細管障害が軽減されることが考えられた。また, EDS により障害された精細管に対しても, hCG の大量投与により回復を促すことができると思われた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は抗腫瘍効果のある Etane dimethanesulphonate (DDS) が精巣間質の Leydig 細胞を選択的に破壊し造精機能障害を引き起こすことが認められているが, human chorionic gonadotropin (hCG) を投与することによって防御効果のあることを, 動物実験により証明し, 臨床応用の可能性を示した価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。